



ご入居者の声



共楽荘特養ホーム

桂川 一美 かつらがわ かずみ 97歳



私は大正十五年一月三日に岐阜県の田舎で兄四人末一人女性として生まれました。気ままに育つたようでは今は後悔することが多く、田舎の尋常高等小学校を卒業後、大坂に出て荒波にもまれる事三年間と少し。大人になって田舎に帰り、戦争のため男性不足で初めての女性職員として営林所に入所しました。

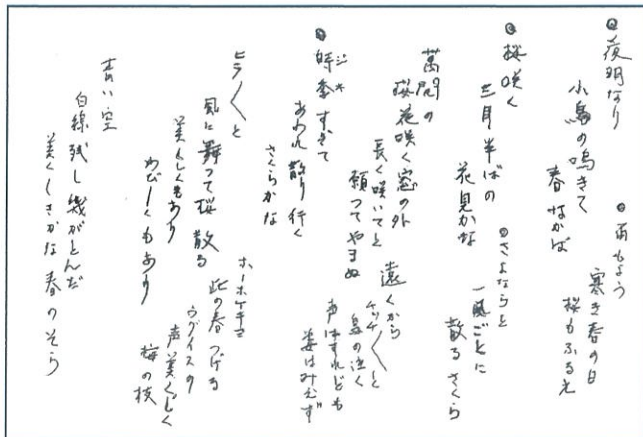
五年を経て結婚をし、三人の女子に恵まれましたが、早くに夫に先立たれました。大変でしたが、生まれつき呑気な私ですので、お弁当屋で働きながら日本舞踊を習ったり、唄を歌ったりと気まま

に過ごさせていただきました。

九十歳を過ぎたある日、突然倒れ足がきかなくなりました。衣笠病院にお世話になり一か月半、とうとう歩くことが出来なくなり共楽荘にお世話になることになりました。今ではすっかりこの人となり、毎日俳句を書くなどして過ごしております。

何から何までお世話になっております。今で九十七と半年、命ある限りがんばります。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



養護老人ホーム

井川 晃 いがわ あきら 84歳



「私の人生」

私は昭和十三年九月二十八日に北海道で男二人女五人の長男として生まれました。二十歳まで地元で酪農業を営んでいましたが建設業・造園業を経て上京。

東京に十年、沖縄で十年ほど生活していました。六十歳の時、一念発起して療術師の学校に入学、東洋医学や療術を学び横須賀で開業、療養院として十年以上従事しました。共楽荘との縁はケガをした右肩を癒すためにシヨートステイを利用したことです。共楽荘

の敷地は桜や椿などたくさんの植物が植えてあり、入所したら自分の趣味を生かした暮らしができるのでは？と感じ申し込みを行いました。入所してからは、華道・民謡・詩吟クラブに参加したり、気の合った友人と一緒に庭いじりをしたりと充実した暮らしをしています。食事もとてもおいしく残さず頂いています。皆様、これからもよろしく願います。

